

2017年8月期 第3四半期業績 および通期見通し

岡崎 健

株式会社ファーストリテイリング
グループ上席執行役員 CFO

1

CFOの岡崎です。
私から、2017年8月期第3四半期の業績、および
通期の業績見通しについてご説明いたします。

I. 第3四半期決算概要	P3	～	P18
II. 2017年8月期 通期業績予想	P19	～	P21
III. 参考資料	P22	～	P24

【業績開示について】

- ・2014年8月期末より国際会計基準(IFRS)を適用、本資料上の数字については、すべてIFRSベースで記載しております。
- ・事業利益は、売上収益から売上原価、販管費を控除して算出しております。
- ・各セグメントの構成は、以下のとおりです。
 - 国内ユニクロ事業：国内ユニクロ事業の数値が表示されています。
 - 海外ユニクロ事業：海外で展開するユニクロ事業が含まれています。
 - グローバルブランド事業：ジーユー事業、セオリー事業、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業、J Brand事業が含まれています。
- ・連結業績には上記の他、ファーストリテイリングの業績、連結調整が含まれております。

【将来予測に関するご注意】

本資料に掲載されている業績予想、計画、目標数値などのうち、歴史的事実でないものは、作成時点で入手可能な情報に基づき作成した将来情報です。実際の業績は、経済環境、市場の需要・価格競争に対する対応、為替などの変動により、この業績予想、計画、目標数値と大きく異なる場合があります。

**第3四半期（9ヶ月累計）は増収増益
売上収益、営業利益ともに、計画を上回る**

	1Q~3Q (2016/9~2017/5)			3Q (2017/3~2017/5)		
	9ヶ月累計 実績	前年 実績	前年 同期比	3ヶ月 実績	前年 実績	前年 同期比
売上収益 (売上比)	14,779 100.0%	14,346 100.0%	+3.0%	4,604 100.0%	4,229 100.0%	+8.9%
売上総利益 (売上比)	7,254 49.1%	6,943 48.4%	+4.5% +0.7p	2,312 50.2%	2,174 51.4%	+6.3% ▲1.2p
販管費 (売上比)	5,461 37.0%	5,404 37.7%	+1.1% ▲0.7p	1,806 39.2%	1,697 40.1%	+6.4% ▲0.9p
事業利益 (売上比)	1,792 12.1%	1,538 10.7%	+16.5% +1.4p	505 11.0%	476 11.3%	+6.0% ▲0.3p
その他収益・費用 (売上比)	13 0.1%	▲80 -	-	▲5 -	▲12 -	-
営業利益 (売上比)	1,806 12.2%	1,458 10.2%	+23.9% +2.0p	499 10.9%	464 11.0%	+7.5% ▲0.1p
金融収益・費用 (売上比)	148 1.0%	▲237 -	-	▲20 -	▲64 -	-
税引前四半期利益 (売上比)	1,954 13.2%	1,220 8.5%	+60.1% +4.7p	478 10.4%	400 9.5%	+19.5% +0.9p
親会社の所有者に 帰属する四半期利益 (売上比)	1,201 8.1%	710 4.9%	+69.1% +3.2p	228 5.0%	239 5.7%	+4.5% ▲0.7p

単位：億円

※ 海外子会社からの配当受け取りに関する配当方針を変更したことに伴い、当第3四半期において、将来受け取る可能性のある配当に対しての税金費用を追加で65億円引き当てました。

3

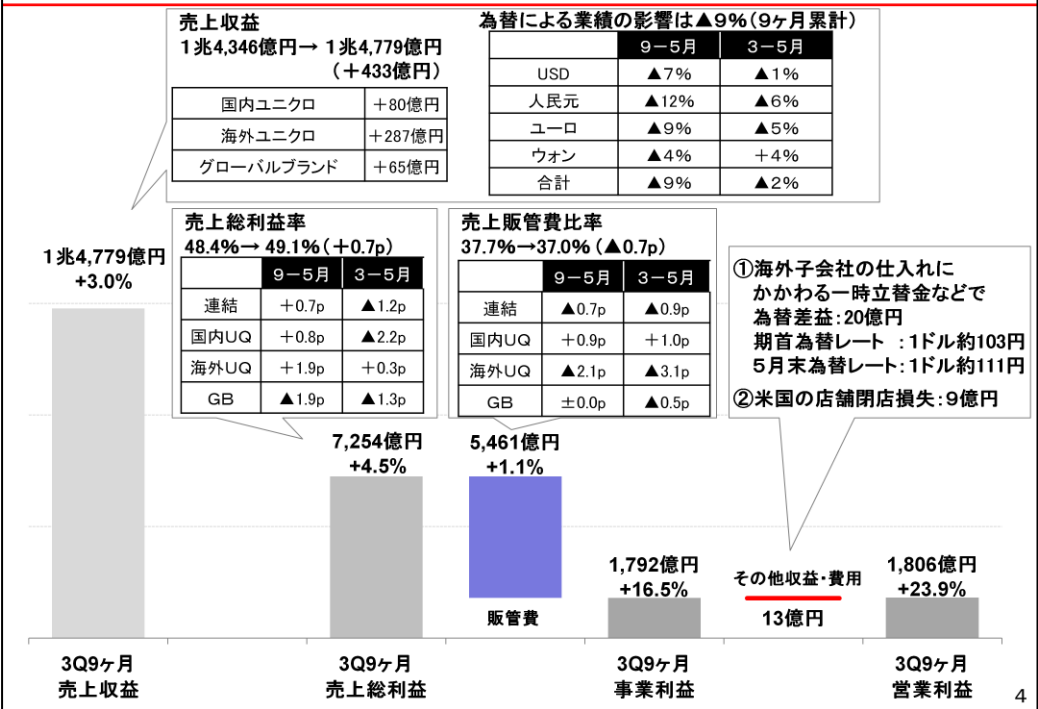
2017年8月期第3四半期9ヶ月累計の連結業績ですが、
 売上収益は1兆4,779億円、前年同期比3.0%増、
 事業そのものの収益を示す事業利益は1,792億円、同16.5%増、
 営業利益は1,806億円、同23.9%増と増収増益を達成いたしました。
 計画に対しては、9ヶ月累計および第3四半期3ヶ月間でも、売上収益、営業利益ともに
 計画を上回っております。

なお、第3四半期3ヶ月間の親会社の所有者に帰属する四半期利益は、228億円と
 同4.5%減となっておりますが、これは、海外子会社からの配当の受け取りに関する
 配当方針を変更したことに伴い、将来受け取る可能性のある配当に対しての
 税金費用を追加で65億円引き当てたためです。

この影響を除けば、親会社の所有者に帰属する四半期利益は、実質的には増益と
 なっております。

これは会計基準に従って税金費用を引き当てたものであり、実際の配当は、
 海外子会社の成長戦略を踏まえ、長期的な視野にたって実施していく考えです。

FAST RETAILING **【連結】第3四半期(9ヶ月累計) 営業利益**



まず、9ヶ月累計の連結の損益計算書のポイントをご説明いたします。

売上収益は、前年同期比433億円の増収となりました。
これは、海外ユニクロ事業で287億円、国内ユニクロ事業で80億円、
グローバルブランド事業で65億円の増収と、全セグメントで増収となったことによります。
海外ユニクロ事業は287億円の大幅な増収となりましたが、これは第3四半期
3ヶ月間で約250億円の増収となったことによります。

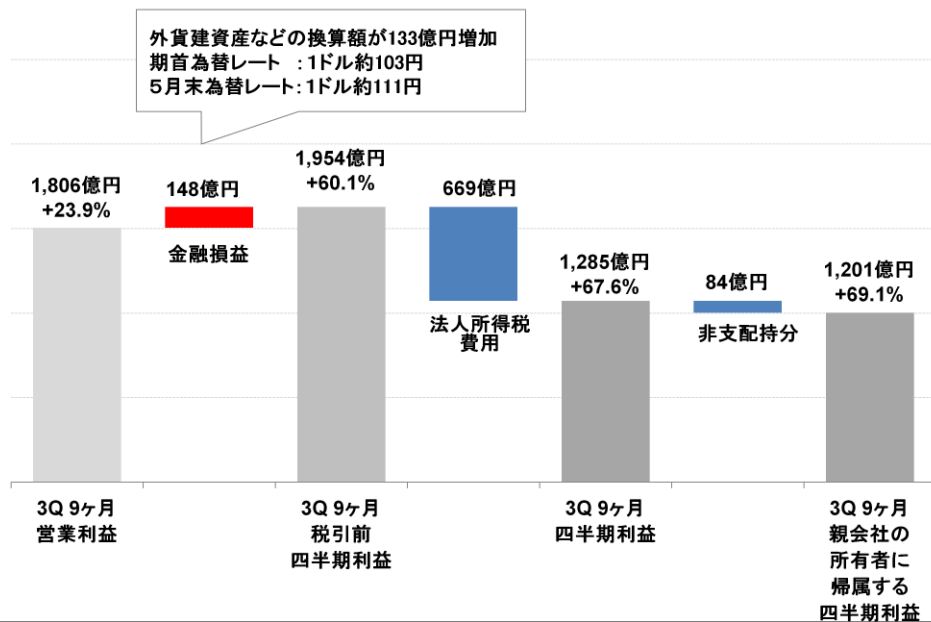
売上総利益率は49.1%と、同0.7ポイント改善しております。
これは、主に海外ユニクロ事業で1.9ポイント、国内ユニクロ事業で0.8ポイント
改善したことによります。

売上販管費比率は37.0%と、同0.7ポイント改善しております。
これは、海外ユニクロ事業で2.1ポイント改善したためです。

事業利益は1,792億円と、同16.5%の増益となりました。

その他収益・費用の合計は13億円のプラスとなっております。
これは主に、5月末の為替レートが、期首に比べ円安となったことにより、
海外子会社の仕入れにかかわる一時立替金などで為替差益が20億円発生した
こと、米国の4店舗閉店に伴う除却損・閉店損が9億円発生したことによります。

これらの結果、営業利益は1,806億円、同23.9%増の増益となりました。



次に、金融損益ですが、期首に比べ、為替が円安になったことから、外貨建資産などの換算額が増加し、金融損益はネットで148億円のプラスとなっております。

この結果、税引前四半期利益は1,954億円と前年同期比60.1%増、親会社の所有者に帰属する四半期利益は1,201億円、同69.1%増となりました。

【セグメント別】第3四半期 実績

単位：億円

		1Q～3Q (2016/9～2017/5)			3Q (2017/3～2017/5)		
		9ヶ月累計 実績	前年 実績	前年 同期比	3ヶ月 実績	前年 実績	前年 同期比
国内ユニクロ事業	売上収益	6,534	6,454	+1.2%	1,983	1,917	+3.5%
	事業利益 (売上比)	932 14.3%	928 14.4%	+0.5% ▲0.1p	237 12.0%	292 15.2%	▲18.7% ▲3.2p
	その他収益・費用	▲6	3	-	0	▲1	-
	営業損益 (売上比)	926 14.2%	932 14.4%	▲0.6% ▲0.2p	238 12.0%	291 15.2%	▲18.0% ▲3.2p
海外ユニクロ事業	売上収益	5,615	5,328	+5.4%	1,687	1,435	+17.5%
	事業利益 (売上比)	694 12.4%	445 8.4%	+55.9% +4.0p	195 11.6%	120 8.4%	+63.2% +3.2p
	その他収益・費用	▲12	▲23	-	▲2	8	-
	営業損益 (売上比)	681 12.1%	422 7.9%	+61.3% +4.2p	193 11.5%	128 8.9%	+50.7% +2.6p
グローバル ブランド事業	売上収益	2,609	2,543	+2.6%	927	870	+6.5%
	事業利益 (売上比)	193 7.4%	234 9.2%	▲17.4% ▲1.8p	89 9.7%	92 10.6%	▲2.4% ▲0.9p
	その他収益・費用	▲2	▲4	-	0	▲4	-
	営業損益 (売上比)	191 7.3%	230 9.1%	▲17.0% ▲1.8p	90 9.8%	87 10.0%	+3.8% ▲0.2p

注：連結業績には上記の他、ファーストリテイリングの業績、連結調整が含まれております。
国内ユニクロの業績にはグループ間取引が含まれております(売上収益を除く)。

6ページのスライドは、セグメント別の業績です。
各セグメントの詳細については、次のスライドからご説明いたします。

3Q (3~5月) 営業利益は計画を若干下回り、減益

単位: 億円

	1Q~3Q (2016/9~2017/5)			3Q (2017/3~2017/5)		
	9ヶ月累計 実績	前年 実績	前年 同期比	3ヶ月 実績	前年 実績	前年 同期比
売上収益 (売上比)	6,534 100.0%	6,454 100.0%	+1.2%	1,983 100.0%	1,917 100.0%	+3.5%
売上総利益 (売上比)	3,149 48.2%	3,061 47.4%	+2.9% +0.8p	961 48.5%	972 50.7%	▲1.1% ▲2.2p
販管費 (売上比)	2,216 33.9%	2,132 33.0%	+3.9% +0.9p	724 36.5%	680 35.5%	+6.4% +1.0p
事業利益 (売上比)	932 14.3%	928 14.4%	+0.5% ▲0.1p	237 12.0%	292 15.2%	▲18.7% ▲3.2p
その他収益・費用 (売上比)	▲6 -	3 0.1%	- -	0 0.0%	▲1 -	- -
営業利益 (売上比)	926 14.2%	932 14.4%	▲0.6% ▲0.2p	238 12.0%	291 15.2%	▲18.0% ▲3.2p

注: 国内ユニクロの業績にはグループ間取引が含まれております(売上収益を除く)。

7

まず、国内ユニクロ事業の第3四半期3ヶ月間の業績ですが、
売上収益は1,983億円、前年同期比3.5%増、
営業利益は238億円、同18.0%減と、増収減益の結果となりました。

これは、売上収益、営業利益ともに計画を若干下回っております。

【国内ユニクロ事業】売上収益の状況

**3Q
(3~5月) 売上収益 1,983億円 (前年同期比+3.5%)**

- ・3Q既存店売上高(Ｅコマースを含む)は、+2.7%(客数 +8.5%、客単価▲5.3%)
 - ✓ 3月は全国的に気温が低い日が続き、春物の需要が弱く、既存店売上高は前年を若干下回る
 - ✓ 4月、5月は、ワイヤレスブラ、イージーアンクルパンツ、感動パンツといった話題性のある商品の販売が好調。ゴールデンウィーク、母の日、感謝祭など、催事に合わせたプロモーションが成功し増収
 - ✓ 客数の増加は、キャンペーン商品の販売が好調で集客につながったこと
 - ✓ 客単価の減少は、ボトムスの構成比の伸びが一巡したことに加え、インナー類の販売が好調だったことにより、比較的単価の低い商品の売上構成比が高まった影響
- ・Ｅコマースの売上は123億円、+17.3%、売上構成比は5.5%から6.2%に上昇
 - ✓ 3ヶ月間のＥコマースの売上は計画を下回る

直営既存店 前年比	2017年8月期					
	上期累計	3月	4月	5月	3Q	6月
売上高	+0.1%	▲1.1%	+6.2%	+2.4%	+2.7%	+4.1%
客数	+0.2%	+6.6%	+11.4%	+7.5%	+8.5%	+8.2%
客単価	▲0.1%	▲7.2%	▲4.7%	▲4.7%	▲5.3%	▲3.8%

2017年5月末 直営店舗数793店舗、前年同期末比▲14店舗(21店舗出店、35店舗閉店)
FC店 41店舗、 同 +2店舗

8

国内ユニクロの既存店売上高は、前年同期比2.7%の増収となりました。

3月は全国的に気温が低い日が続いたことから、春物の需要が弱く、既存店売上高は前年を若干下回りました。しかし、4月、5月は、ワイヤレスブラ、イージーアンクルパンツ、感動パンツといった話題性のある商品の販売が好調だったことに加え、ゴールデンウィーク、母の日、感謝祭など、催事に合わせたプロモーションが成功したことで、既存店売上高は増収となりました。

3ヶ月間の既存店売上高2.7%増の内訳は、客数で8.5%の増加、客単価で5.3%の減少となっております。客数の増加はキャンペーン商品の販売が好調で集客につながったこと、客単価の減少は、ボトムスの構成比の伸びが一巡したことに加え、インナー類の販売が好調だったことにより、比較的単価の低い商品の売上構成比が高まった影響によるものです。

Ｅコマースの売上は123億円と、同17.3%増、売上構成比は5.5%から6.2%に上昇いたしました。3ヶ月間のＥコマースの売上は計画を下回りました。

春夏の好調な商品



“感動パンツ”

- ・プロゴルファーのアダム・スコット選手、東レ株式会社と共同開発
- ・軽くて動きやすく、汗をかいてもすぐに乾くといった高い機能性をもつ
- ・ビジネスからスポーツまで幅広いシーンで着用できる新しいコア商品

“ワイヤレスブラ”

- ・今年の2月に、2015年の発売以来初めてキャンペーン商品として打ち出す
- ・女優の佐々木希さんを起用したTVCMが話題となる



スライド9ページは、この春夏シーズンで特に好調な商品です。

2014年に販売を開始した“感動パンツ”は、軽くて動きやすく、汗をかいてもすぐに乾くといった高い機能性をもった商品で、ビジネスからスポーツまで幅広いシーンで着用できる新しいコア商品として、お客様から好評をいただいております。

“ワイヤレスブラ”は、今年の2月に、女優の佐々木希さんを起用したTVCMが話題となり、好調な販売が継続しております。

3Q
(3~5月) 売上総利益率 48.5% (前年同期比 ▲2.2p)

売上総利益率はほぼ計画通り

- ・為替の社内レートの円安傾向が継続、原価率が上昇
- ・上期の値引率は、暖冬の影響で値引きを行った前年度に対し、大幅に改善したが、下期は前年度からすでに値引率をコントロールしてきたため、値引率の改善幅が縮小

10

次に、国内ユニクロ事業の第3四半期3ヶ月間の売上総利益率ですが、48.5%と、前年同期比2.2ポイント低下いたしました。これは、ほぼ計画通りの水準です。

売上総利益率が前年比で低下した要因としては、為替の社内レートの円安傾向が継続しているため、原価率が上昇したことが挙げられます。

上期の値引率は、暖冬の影響で値引きを行った前年度に対し、大幅に改善いたしましたが、下期は前年度からすでに値引率をコントロールしてきたことから、値引率の改善幅が縮小しております。

【国内ユニクロ事業】販管費

3Q
(3~5月) 売上販管費比率 36.5% (前年同期比+1.0p)

販管費は金額ベースでほぼ計画通り

- ・人件費：一部地域での時給の上昇、繁忙期の臨時雇用の増加
- ・物流費：物流委託費の上昇や、物流改革に伴う一時的な費用の増加
- ・広告宣伝費：ノベルティ配布、キャンペーンの数が増え、TVCMが増加

人件費	前年同期比	+0.4ポイント
物流費	同	+0.4ポイント
広告宣伝費	同	+0.3ポイント
賃借料	同	+0.1ポイント
その他経費	同	±0.0ポイント
減価償却費	同	-0.1ポイント

11

売上販管費比率は36.5%と、前年同期比1.0ポイント上昇いたしました。金額ベースでほぼ計画通りの水準となりましたが、売上が計画を下回ったことから、売上比率は計画を若干上回りました。

人件費は計画通りでしたが、売上比率は前年同期比で0.4ポイント上昇いたしました。これは、一部地域での時給の上昇、繁忙期の臨時雇用の増加により、店舗人件費が増加したためです。

物流費も計画通りでしたが、売上比率は同0.4ポイント上昇いたしました。これは、物流委託費の上昇や、物流改革に伴う一時的な費用の増加によります。ただし、第3四半期では、配送の効率化や予備倉庫の削減などの改善策は着実に進んでおります。

広告宣伝費も計画通りでしたが、売上比率は同0.3ポイント上昇いたしました。これは、集客のためにゴールデンウィーク商戦や感謝祭の期間にノベルティを配布したこと、キャンペーンの数が増えたことでTVCMが増加したことによります。

【海外ユニクロ事業】第3四半期(3ヶ月) サマリー

**3Q
(3~5月) 計画を上回り、大幅な増収増益**

- ・東南アジア・オセアニア地区、韓国の営業利益は倍増
- ・グレーターチャイナも、好調な業績を維持、大幅な増益
- ・米国の赤字幅は、計画通り、前年同期比で縮小
- ・第3四半期3ヶ月間では、50店舗を出店、8店舗を閉店、5月末の海外ユニクロ事業の店舗数は1,071店舗

単位:億円

		1Q~3Q (2016/9~2017/5)			3Q (2017/3~2017/5)		
		9ヶ月累計 実績	前年 実績	前年 同期比	3ヶ月 実績	前年 実績	前年 同期比
海外ユニクロ事業	売上収益	5,615	5,328	+5.4%	1,687	1,435	+17.5%
	事業利益 (売上比)	694 12.4%	445 8.4%	+55.9% +4.0p	195 11.6%	120 8.4%	+63.2% +3.2p
	その他収益・費用	▲ 12	▲ 23	-	▲ 2	8	-
	営業損益 (売上比)	681 12.1%	422 7.9%	+61.3% +4.2p	193 11.5%	128 8.9%	+50.7% +2.6p

12

次に海外ユニクロ事業についてご説明いたします。

第3四半期3ヶ月間の売上収益は1,687億円、前年同期比17.5%増、営業利益は193億円、同50.7%増と、計画を上回り、大幅な増収増益となりました。

特に、東南アジア・オセアニア地区、韓国は好調で、営業利益は計画を上回り、前年同期比で倍増しております。

グレーターチャイナも引き続き好調な業績を維持し、計画を上回る大幅な増益となっております。

また、米国の赤字幅は、計画通り、前年同期比で縮小いたしました。

第3四半期3ヶ月間では、グレーターチャイナおよび欧州を中心に、50店舗を出店、8店舗を閉店し、5月末の海外ユニクロ事業の店舗数は1,071店舗に達しております。

なお、この3ヶ月間では、業績に対する為替の影響は、平均2%の押し下げ要因となっております。

グレーターチャイナ: 計画を上回る増収増益
韓国: 経営改革を進め、既存店売上高が増収に転じ、粗利益率の改善、経費削減により、営業利益は倍増

【中国大陸】

- ・祝日や労働節などの時節に合わせたキャンペーンで集客、4月、5月は天候に恵まれ、UTやポロシャツなどの夏物コア商品の販売が好調。既存店売上高は増収
- ・経費削減を継続、デジタルマーケティングへのシフトによる広告宣伝費の削減、物流の見直しによる物流費の削減などにより、経費比率は改善、営業利益は大幅増益
- ・Eコマース販売は、2桁増収を継続、グレーターチャイナ全体の売上構成比は10%強

【香港、台湾】

- ・香港、台湾ともに、経費削減の効果もあり、計画を上回る増益を達成
- ・香港ではUTやボトムスが好調で、3Qの既存店売上高は増収に転じる
- ・台湾では、消費低迷が続く、既存店売上高は減収が続くも、減収幅は大幅に改善

【韓国】

- ・アパレル小売市場は低迷が続くも、商品構成の見直しやデジタルマーケティングへのシフトで、エアリズム、感動パンツ、プラトップなどの夏物コア商品を中心に好調な販売
- ・在庫水準の見直しにより、人件費や物流費が大幅に改善

次に、各エリアの第3四半期3ヶ月間の業績トレンドについてご説明いたします。

グレーターチャイナの業績は、計画を上回る増収増益を達成いたしました。

中国大陸は、祝日や労働節などの時節に合わせたキャンペーンで集客できたこと、4月、5月は天候に恵まれ、UTやポロシャツなどの夏物コア商品の販売が好調だったことにより、既存店売上高は増収となりました。

また、経費削減も継続しており、デジタルマーケティングへのシフトによる広告宣伝費の削減、物流の見直しによる物流費の削減などにより、経費比率は改善、営業利益は大幅な増益となりました。

なお、Eコマース販売は、2桁増収を継続しており、グレーターチャイナ全体の売上構成比は10%強となっております。

香港、台湾ともに、経費削減の効果もあり、計画を上回る増益を達成しております。

韓国の第3四半期3ヶ月間は、経営改革を進めたことにより、既存店売上高が増収に転じ、粗利益率が改善、経費も削減でき、営業利益は計画を大幅に上回り、前年同期比で倍増いたしました。

韓国のアパレル小売市場は低迷が続いておりますが、ユニクロ韓国では商品構成の見直しやデジタルマーケティングへのシフトにより、エアリズム、感動パンツ、プラトップなどの夏物コア商品を中心に好調な販売となりました。また、在庫水準の見直しを行ったことにより、人件費や物流費が大幅に改善いたしました。

東南アジア・オセアニア: 計画を大幅に上回り、営業利益は倍増
北米: 米国は計画通り、赤字幅が縮小
欧州: ほぼ計画通り増収も、営業利益は若干の減益

【東南アジア・オセアニア地区】

- ・UT、ドライEXポロシャツなどのスポーツ商品群、ウィメンズのブラウスやドレスなどの新商品、感動パンツ、ハナタジマやバティック柄のコレクションといった東南アジアの気候や文化に合わせた商品の販売が好調で、既存店売上高は2桁増収と好調
- ・売上が好調で、粗利益率、経費比率が改善

【米国】

- ・デジタルマーケティングの強化、店内に商品の機能性を紹介するブースを設置、店内ポスターの充実により、商品やブランドの知名度を高めることができ、UT、ポロシャツ、リネンシャツ、デニムなどのコア商品の販売が好調
- ・イースターやメモリアルデーなどの祝日に合わせたキャンペーンが成功、既存店売上高は増収に転じる
- ・経営改革が進んだことから、経費比率も大きく改善

【欧州】

- ・ロシアで5店舗、フランスで4店舗、ドイツで1店舗と、出店数が増えたことで経費が先行し、営業利益は若干の減益

14

東南アジア・オセアニア地区も、計画を大幅に上回り、営業利益は倍増いたしました。これは、UT、ドライEXポロシャツなどのスポーツ商品群、ウィメンズのブラウスやドレスなどの新商品、感動パンツに加え、ハナタジマやバティック柄のコレクションといった東南アジアの気候や文化に合わせた商品の販売が好調で、既存店売上高は2桁増収と好調だったことによります。売上が好調だったことから、粗利益率、経費比率が改善しております。

米国は、計画通り、赤字幅を縮小することができました。デジタルマーケティングの強化に加え、店内に商品の機能性を紹介するブースを設けたり、店内ポスターの充実により、商品やブランドの知名度を高めることができ、UT、ポロシャツ、リネンシャツ、デニムなどのコア商品の販売が好調でした。これに加え、イースターやメモリアルデーなどの祝日に合わせたキャンペーンが成功し、既存店売上高は増収に転じました。また、経営改革が進んだことから、経費比率も大きく改善しております。

欧州は、ほぼ計画通り増収、営業利益は若干の減益となりました。第3四半期3ヶ月間で、ロシアで5店舗、フランスで4店舗、ドイツで1店舗と、出店数が増えたことで経費が先行し、営業利益は若干の減益となりました。

3Q (3~5月) ほぼ計画通りの業績

- ・**ジーユー事業**: 計画を若干下回り、減益
 - ・キャンペーン商品として打ち出したパラッツォパンツ、デザインブラウスは好調も、想定していたほどのヒット商品にはならず。キャンペーン以外のトレンド商品の数量が少なく、機会ロスが生じ、既存店売上高は減収
 - ・値引きによる在庫処分、円安による原価率の上昇で、粗利益率は低下
- ・**セオリー事業**: 計画を上回り、大幅な増益、PLSTの収益改善
 - ・PLSTでは、カジュアル中心の商品構成をオフィスカジュアルにまで広げたこと、デジタルでの情報発信を充実させたことで、客層が広がり、客数が大幅に増加
- ・**コントワー・デ・コトニエ事業**: 赤字幅は計画通り縮小
- ・**プリンセス タム・タム事業、J Brand事業**: 赤字が継続

単位: 億円

		1Q~3Q (2016/9~2017/5)			3Q (2017/3~2017/5)		
		9ヶ月累計実績	前年実績	前年同期比	3ヶ月実績	前年実績	前年同期比
グローバルブランド事業	売上収益	2,609	2,543	+2.6%	927	870	+6.5%
	事業利益 (売上比)	193 7.4%	234 9.2%	▲17.4% ▲1.8p	89 9.7%	92 10.6%	▲2.4% ▲0.9p
	その他収益・費用	▲2	▲4	-	0	▲4	-
	営業損益 (売上比)	191 7.3%	230 9.1%	▲17.0% ▲1.8p	90 9.8%	87 10.0%	+3.8% ▲0.2p

15

次に、グローバルブランド事業についてご説明いたします。

第3四半期3ヶ月間での売上収益は927億円、前年同期比6.5%増、営業利益は90億円、同3.8%増となりました。これはほぼ計画通りの業績となっております。

ジーユー事業は、第3四半期3ヶ月間では増収となりましたが、計画を若干下回り、減益となりました。キャンペーン商品として打ち出したパラッツォパンツや、今年のトレンドを取り入れたデザインブラウスは好調な販売となったものの、想定していたほどのヒット商品にはなりませんでした。また、キャンペーン以外のトレンド商品の数量が少なく、機会ロスが生じたことなどにより、既存店売上高は計画を下回り、減収となりました。売上が計画を下回ったことで、値引きによる在庫処分を進めたことに加え、為替の社内レートが円安となったことにより原価率が上昇し、粗利益率は低下いたしました。

セオリー事業は増収、計画を上回る大幅な増益となりました。特に、PLST(プラステ)の収益性が改善しております。PLSTでは、カジュアル中心の商品構成をオフィスカジュアルにまで広げたこと、ウェブマガジンなどを利用したデジタルでの情報発信を充実させたことにより、客層が広がり、客数が大幅に増加しております。

コントワー・デ・コトニエ事業は、既存店売上高の減収が続いておりますが、経費削減の効果により、赤字幅は計画通り縮小いたしました。

プリンセス タム・タム事業、J Brand事業は、前年並みの赤字が継続しております。

【連結】2017年5月末 B/S

単位：億円

	2016年5月末	2016年8月末	2017年5月末	前年同期末比
資産合計	12,727	12,381	14,019	+1,291
流動資産	9,774	9,245	10,951	+1,176
非流動資産	2,952	3,135	3,067	+114
負債	5,791	6,404	6,405	+613
資本合計	6,935	5,976	7,613	+677

16

次に、2017年5月末のバランスシートについてご説明いたします。

資産合計は1兆4,019億円と、前年同期末比1,291億円増加いたしました。

詳細については、次のスライドでご説明いたします。

【連結】B/Sのポイント(前年同期末比)

流動資産の増加 +1,176億円(9,774億円⇒1兆951億円)

- ・現金及び現金同等物の増加: +1,135億円(4,539億円⇒5,674億円)
 営業キャッシュ・フローの増加
 ⇒定期預金など1,947億円を加えた、流動性が高い金融資産の残高は7,622億円
- ・たな卸資産の増加: +113億円(2,178億円⇒2,291億円)
 【国内UQ】+35億円 秋物立ち上げの早期化
 【海外UQ】+53億円 店舗数+143店舗、秋物立ち上げの早期化
 【グローバルブランド】+24億円 ジューー事業の事業拡大

負債の増加 +613億円(5,791億円⇒6,405億円)

- ・未払法人所得税の増加: +268億円(146億円⇒414億円)
 第3四半期9ヶ月累計で大幅増益のため
- ・買掛金及びその他の短期債務の増加: +232億円(1,874億円⇒2,107億円)
 前年度に比べ、秋物商品の立ち上がりを早めるため
- ・繰延税金負債の増加: +65億円(49億円⇒115億円)
 海外子会社の配当方針の変更に伴い、税金費用を引き当てたため

17

まず、流動資産ですが、1,176億円増加いたしました。

現金及び現金同等物は、営業キャッシュ・フローが増加したことにより、同1,135億円増加しております。

現金及び現金同等物の合計5,674億円に、定期預金など1,947億円を加えた、流動性が高い金融資産の残高は7,622億円となっております。

たな卸資産は、主に海外ユニクロ事業の事業拡大に伴い、同113億円増加いたしました。

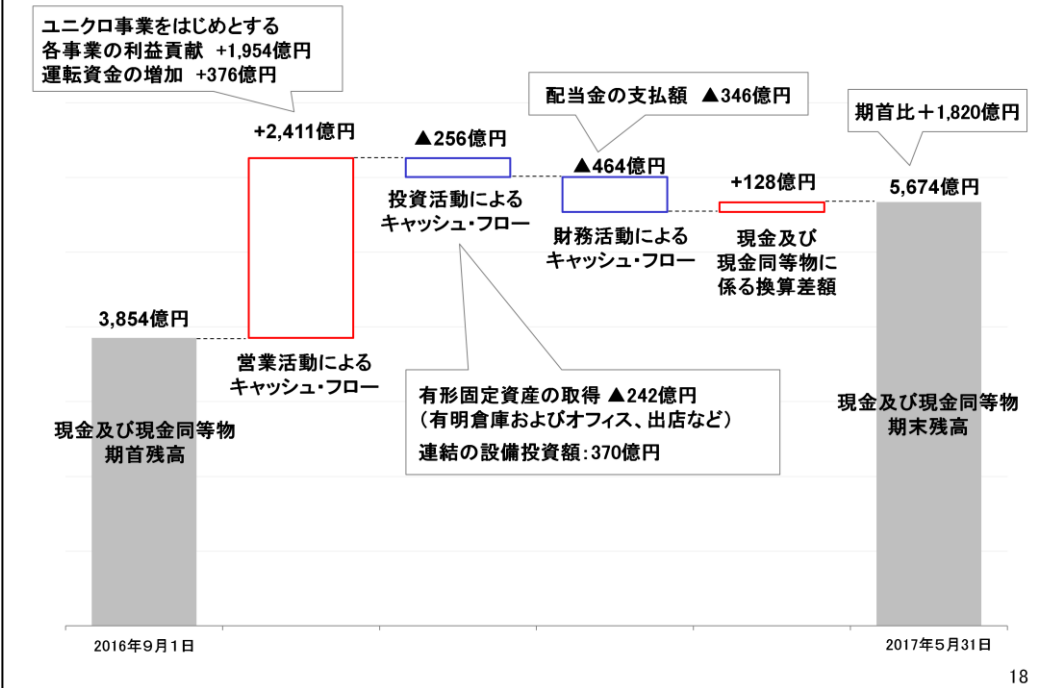
負債は613億円増加しております。

未払法人所得税は、第3四半期9ヶ月累計が増益だったことにより、同268億円増加いたしました。

買掛金及びその他の短期債務は、前年度に比べ、秋物商品の立ち上がりを早めたため、同232億円増加しております。

繰延税金負債は、主に海外子会社の配当方針の変更に伴い、税金費用を引き当てたことにより、同65億円増加いたしました。

【連結】第3四半期(9ヶ月累計)キャッシュ・フロー



次に、第3四半期累計のキャッシュ・フローですが、
 営業活動によるキャッシュ・フローは、2,411億円の収入、
 投資活動によるキャッシュ・フローは、256億円の支出、
 財務活動によるキャッシュ・フローは、464億円の支出となった結果、
 2017年5月末における現金及び現金同等物の期末残高は5,674億円となりました。

【連結】2017年8月期予想 通期業績

通期業績予想は変更せず

売上収益 : 1兆8,500億円 前期比 +3.6%
営業利益 : 1,750億円 前期比 +37.5%
 親会社の所有者に
 帰属する当期利益 : 1,000億円 前期比 +108.1%

	2016年8月期	2017年8月期		2017年8月期	単位: 億円
	通期実績	通期予想 (7/13)	前期比	3Q9ヶ月 実績	
売上収益 (売上比)	17,864 100.0%	18,500 100.0%	+3.6%	14,779 100.0%	
事業利益 (売上比)	1,620 9.1%	1,800 9.7%	+11.1% +0.6p	1,792 12.1%	
その他収益・費用	▲347	▲50	-	13	
営業利益 (売上比)	1,272 7.1%	1,750 9.5%	+37.5% +2.4p	1,806 12.2%	
金融収益・費用	▲370	0	-	148	
税引前利益 (売上比)	902 5.1%	1,750 9.5%	+93.9% +4.4p	1,954 13.2%	
親会社の所有者に 帰属する当期利益 (売上比)	480 2.7%	1,000 5.4%	+108.1% +2.7p	1,201 8.1%	

19

スライド19ページからは、2017年8月期の通期業績予想について、ご説明いたします。

第3四半期9ヶ月累計の事業利益は、国内ユニクロ事業が計画を下回って進捗しているものの、海外ユニクロ事業は計画を大幅に上回っていることから、連結ベースでは、計画を上回る強含みの進捗となっております。

その他収益・費用は、9ヶ月累計では為替差益などによりプラス13億円ですが、赤字が継続している子会社や店舗の減損損失などが期末に計上される可能性があるため、期初計画通りのマイナス50億円を見込んでおります。

また、9ヶ月累計の金融収益・費用として、為替差益などを合計で148億円計上しておりますが、為替の見通しが不透明なことから、直近予想を変更しておりません。

親会社の所有者に帰属する当期利益は、第3四半期9ヶ月累計で1,201億円と、通期の業績予想を上回って進捗しておりますが、このような要因から、現時点では、業績予想は変更しておりません。

国内ユニクロ事業:通期は若干の減益を見込む

- ・4Qは、増収を見込むものの、シーズン末の在庫処分が増え、値引率が計画を上回る予想のため、通期では直近予想を下回り、若干の減益となる見込み
- ・来期も原価率の上昇、物流委託費の増加といった厳しい事業環境が続く見通したが、新商品の開発を強化し、在庫水準の適正化や、ローコスト経営を徹底するなどの経営改革を推進し、収益力の強化を図る

海外ユニクロ事業:通期は大幅な増収増益を見込む

- ・4Qは、グレーターチャイナ、東南アジア・オセアニア地区、韓国が増益と好調な業績が続く。米国の赤字幅は大幅に縮小する見込み
- ・通期の業績は、直近予想を上回り、大幅な増収増益となる見込み
- ・海外ユニクロ事業では、米国などの店舗閉店やスクラップ&ビルドに伴う除却損・閉店損を合計で、通期で35億円見込む
- ・すでにNo.1ブランドであるグレーターチャイナに加え、東南アジア地区も成長の柱となりつつある。来期以降は東南アジアでの出店を加速し、更なる事業の拡大をめざす。また、米国事業の赤字幅は引き続き大幅に縮小する見込み

次に、各事業の通期の業績予想についてご説明いたします。

まず、国内ユニクロ事業ですが、第4四半期は、増収を見込むものの、シーズン末の在庫処分が増え、値引率が計画を上回る予想のため、通期では直近予想を下回り、若干の減益となる見込みです。

国内ユニクロ事業は、来期も原価率の上昇、物流委託費の増加といった厳しい事業環境が続く見通しですが、新商品の開発を強化し、在庫水準の適正化や、ローコスト経営を徹底するなどの経営改革を推進し、収益力の強化を図ってまいります。

海外ユニクロ事業の第4四半期は、グレーターチャイナ、東南アジア・オセアニア地区、韓国が増益と好調な業績が続く見込みです。また、米国の赤字幅は第4四半期に大幅に縮小し、通期では前年比で半減する予想です。この結果、海外ユニクロ事業の通期の業績は、直近予想を上回り、大幅な増収増益となる見込みです。なお、海外ユニクロ事業では、米国などの店舗閉店やスクラップ&ビルドに伴う除却損・閉店損を合計で、通期で35億円を見込んでおります。

海外ユニクロ事業は、すでにNo.1ブランドであるグレーターチャイナに加え、東南アジア地区も成長の柱となりつつあります。来期以降は東南アジアでの出店を加速し、更なる事業の拡大をめざしております。また、米国事業の赤字幅は引き続き大幅に縮小する見込みです。

グローバルブランド事業： 通期は計画通り増収増益を見込む

- ・4Qはジーユー事業の苦戦が続く一方で、セオリー事業は好調な業績となる見込み。通期は計画通りの増収増益を見込む
- ・ジーユー事業は、3Qに売上が計画を下回ったことから、4Qは在庫処分を進めるため、粗利益率が低下することを見込む。下期は直近予想を下回り、減益となる見込み
- ・セオリー事業は、セオリーが順調なことに加え、PLSTの好調な売上が続いているため、通期で大幅な増益を見込む
- ・コントワー・デ・コトニエ事業は通期で赤字、プリンセス タム・タム事業、J Brand事業も前年並みの業績で、赤字が継続する見込み
- ・ジーユー事業は、これまでの限られたキャンペーン商品を軸にした商売から、来期以降はニュース性のある戦略商品数を増やし、クイックな追加生産体制により需要を確実に捉える商売へと転換することで、業績を回復させる



21

次に、グローバルブランド事業ですが、第4四半期はジーユー事業の苦戦が続く一方で、セオリー事業は好調な業績となる見込みのため、通期では計画通りの増収増益を見込んでおります。

ジーユー事業は、第3四半期に売上が計画を下回ったことから、第4四半期は在庫処分を進めるため、粗利益率が計画に比べ低下することを見込んでおります。この結果、下期の営業利益は、直近予想を下回り、前年同期比で減益となる見込みです。

一方で、セオリー事業は、セオリーが順調なことに加え、PLSTの好調な売上が続いていることから、通期で大幅な増益を見込んでおります。

コントワー・デ・コトニエ事業は通期で赤字、プリンセス タム・タム事業、J Brand事業も前年並みの業績で、赤字が継続する見込みです。

今期、苦戦したジーユー事業ですが、今後の方針としては、これまでの限られたキャンペーン商品を軸にした商売から、来期以降はニュース性のある戦略商品数を増やし、クイックな追加生産体制により需要を確実に捉える商売へと転換することで、業績を回復してまいります。

最後に配当金予想ですが、すでに実施した1株当たり中間配当金175円と、期末配当金175円をあわせて、年間配当金350円を予想しております。

以上で、私からの説明を終わります。ありがとうございました。

＜参考資料＞ 連結対象事業別出退店 実績

【単位：店舗】	16年8月期	2017年8月期(2016/9～2017/5)実績				2017年8月期(2016/9～2017/8)予想			
	期末	出店	退店	純増減	期末	出店	退店	純増減	期末
ユニクロ事業合計	1,795	151	41	+110	1,905	182	48	+134	1,929
国内ユニクロ事業：※	837	23	26	▲3	834	30	26	+4	841
直営店	798	21	26	▲5	793	28	26	+2	800
大型店	205	10	6	+4	209	10	6	+4	209
標準店等	593	11	20	▲9	584	18	20	▲2	591
FC	39	2	0	+2	41	2	0	+2	41
海外ユニクロ事業：	958	128	15	+113	1,071	152	22	+130	1,088
中国	472	73	5	+68	540	92	10	+82	554
香港	25	0	0	0	25	0	0	0	25
台湾	63	3	1	+2	65	3	1	+2	65
韓国	173	12	5	+7	180	12	5	+7	180
シンガポール	24	1	1	0	24	1	1	0	24
マレーシア	35	4	0	+4	39	6	0	+6	41
タイ	32	2	0	+2	34	2	0	+2	34
フィリピン	32	5	0	+5	37	8	0	+8	40
インドネシア	9	2	0	+2	11	2	0	+2	11
オーストラリア	12	1	1	0	12	1	1	0	12
米国	45	4	2	+2	47	4	4	0	45
カナダ	0	2	0	+2	2	2	0	+2	2
英国	10	0	0	0	10	0	0	0	10
フランス	10	9	0	+9	19	9	0	+9	19
ロシア	11	8	0	+8	19	8	0	+8	19
ドイツ	3	2	0	+2	5	2	0	+2	5
ベルギー	2	0	0	0	2	0	0	0	2
グローバルブランド事業合計	1,365	76	51	+25	1,390	79	69	+10	1,375
ジーユー事業	350	41	17	+24	374	41	19	+22	372
セオリー事業※	530	27	16	+11	541	30	21	+9	539
コントワー・デ・コトニエ事業※	348	6	12	▲6	342	6	20	▲14	334
プリンセス タム・タム事業※	137	2	6	▲4	133	2	9	▲7	130
総合計	3,160	227	92	+135	3,295	261	117	+144	3,304

注：ミーナ事業、グラミンユニクロ事業は含まない ※フランチャイズ店を含む

＜参考資料＞為替レート

連結決算取込 為替レート

単位：円

	1USD	1EUR	1GBP	1RMB	100KRW
2016年8月期 第3四半期(9ヶ月平均)実績	118.0	130.3	174.4	18.2	10.0
2017年8月期 第3四半期(9ヶ月平均)実績	109.8	118.5	138.1	16.1	9.6
2016年8月期 通期(12ヶ月平均)実績	115.1	127.2	167.4	17.7	9.8
2017年8月期 通期(12ヶ月平均)予想	107.0	116.0	134.0	15.8	9.3

バランスシート適用 為替レート

単位：円

	1USD	1EUR	1GBP	1RMB	100KRW
2016年8月期 第3四半期末為替レート 実績	110.9	123.6	162.7	16.8	9.3
2017年8月期 第3四半期末為替レート 実績	111.0	123.9	142.2	16.3	9.9
2016年8月期 期末為替レート 実績	103.2	114.9	134.9	15.4	9.2
2017年8月期 期末為替レート 予想	103.2	114.9	134.9	15.4	9.2

設備投資・減価償却費

単位：億円

	設備投資					減価償却費
	国内 ユニクロ	海外 ユニクロ	グローバル ブランド	システム他	合計	
2016年8月期 第3四半期実績(9ヶ月累計)	38	210	68	99	417	277
2017年8月期 第3四半期実績(9ヶ月累計)	34	139	64	131	370	275
2016年8月期 通期実績(12ヶ月累計)	45	268	84	126	523	367
2017年8月期 通期予想(12ヶ月累計)	43	193	81	159	477	375